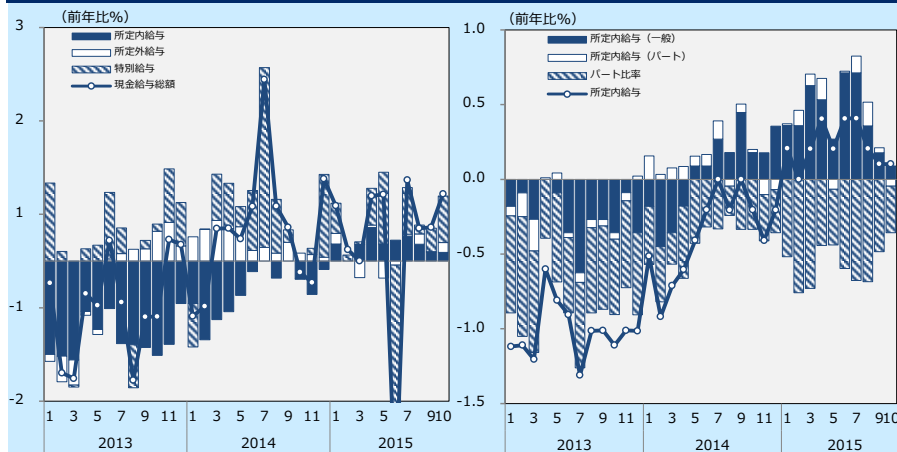


日本：毎月勤労統計（2015年10月）

—今夏の生産調整などから、賃金上昇は一服—

MRI Daily Economic Points
December 4, 2015

図表 現金給与総額の寄与度分解／所定内給与の寄与度分解



資料：厚生労働省「毎月勤労統計」より三菱総合研究所作成。

図表 一般労働者の所定内給与と所定内労働時間（左）
／パート労働者の時給（右上）／所定外労働時間（右下）



資料：厚生労働省「毎月勤労統計」より三菱総合研究所作成。

評価ポイント

2015年10月の結果

- 名目賃金(現金給与総額)は前年同月比+0.7%と上昇、実質賃金も同+0.4%と4か月連続で前年から増加した。今月の名目賃金の増加は、特別給与が同+23.9%と上昇したことが大きく、所定内給与は同+0.1%と伸び率が低下している。
- 所定内給与の伸び率低下の背景を探るため、所定内給与の伸びを一般労働者・パート労働者の所定内給与の伸びと、給与水準が相対的に低いパート労働者比率の変化に寄与度分解すると、パート労働者比率の上昇が所定内給与と全体を押下げていることに加え、一般労働者の所定内給与の伸びが鈍化したことにより、前年比で増加幅が縮小した(前年同月比+0.1%)ことがわかる。
- 一般労働者の所定内給与の伸び鈍化は、所定内労働時間の減少によるところが大きい。9月のシルバーウィークの影響や、今夏の新興国経済減速に伴う生産調整により、非正規労働者を中心に労働者の労働時間が減少し、所定内給与の伸びが鈍化したものと考えられる。
- 一方、パート労働者の時給は、前年同月比+1.8%増と、需給のひっ迫などを要因に、増加基調で推移している。
- 所定外労働時間は、前年同月比▲0.8%(季調済前月比: +0.1%)と9か月連続のマイナスとなった。所定外労働時間は、2015年以降、生産の落ち込みから減少が続いているものの、8月を底にやや持ち直している。

基調判断と今後の流れ

- 賃金の伸びは、今夏の実質賃金調整の影響などから一服しているが、均してみれば、春闘の賃上げや非正規労働者の待遇改善などを背景に、名目賃金(現金給与総額)が増加基調にあることは変わらない。ガソリン価格の下落などもあり、実質賃金も前年比で増加している。
- 先行きは、好調な企業収益や春闘による賃上げなどを背景に、所定内給与を中心に名目賃金は再び緩やかに増加していく見込み。ただし、中国経済が急失速するなど実体経済が下振れれば、所定外給与(残業代)の減少などを通じて、現金給与総額を押下げる可能性がある。